

## 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営に関する有識者懇談会 議事録

**日 時** 令和3年3月19日（金） 15:30～17:00

**場 所** 伝承館研修室

**出席者** 別紙出席者名簿のとおり

### 内 容

#### 1 主催者挨拶

（別紙資料4に基づき、開催趣旨等の説明）

#### 2 委員自己紹介

（別紙資料2に基づき、委員による自己紹介）

#### 3 議題

##### （1）今年度の運営及び活動実績

（別紙資料5に基づき、令和2年度における伝承館の活動について説明）

##### （2）来館者アンケート結果

（別紙資料6に基づき、来館者からのアンケート結果の内容について説明）

##### （3）来年度の主な事業計画

（別紙資料7に基づき、令和3年度における事業計画の概要について説明）

##### （4）意見交換

##### 【小沢座長】

伝承館に様々な形で関わってきた皆さまから、主に2つの視点からご意見をいただきたい。

①施設としての運営の話

②展示物、資料等の充実の度合い

##### ①運営

##### 【前川委員】

- ・伝承館の展示ではメッセージ性が貫徹していないことが気になる。
- ・伝承館の理念にもある「教訓」という言葉を使うのであれば、「二度とこのような事故を起こさない」というメッセージが伝わらなければ伝承館の意義が失われてしまうのではないかと思う。
- ・「未来への教訓」が本当に貫徹できるのかということを考えて、展示及び研修の内容について検討いただきたい。

##### 【青木委員】

- ・展示物に意味づけをしていくことが語り部や研修プログラムの意義であると思っている。
- ・個人の体験を様々な形で語っている「体験語り部」と、研修等で客観的に起きた事実や地域の課題を語る「震災口演」は、体験がルーツであることは共通しているが、明確に違いを把握し整理すべき。研修における「震災口演」は、展示だけでよくわからなかったことに対する補強の役割もある。

##### 【小沢座長】

- ・厳しい意見も含め整理し様々な人と共有していくことが必要であると感じる

#### 【大場委員】

- ・市町村によって復興の状況が異なり、各々とタイアップすることで、その違いを詳しく伝えることができるのではないかと思った。
- ・展示について、視覚に訴える映像も数多くあり、何を重点においているのか分からなかった。

#### 【高荒委員】

- ・伝承館の展示は5つのゾーンに分けられているが、各ゾーンでわかりやすい伝え方を検討すべき。
- ・震災を経験した方の話を聞くと、原子力災害特有の様々なストーリーを持っている。そのような独自の状況を、行政的な言葉だけではなく、具体的に展示に示さないと、お客様には伝わらないと考える。

#### 【小沢座長】

- ・伝わるかどうかは当事者の気持ちを持てるかが大事。自分で想像できると伝わると思う。

#### 【小野委員】

- ・教員向け研修を増やしてほしい。教員の方の震災及び原発事故に関する知識に差があると感じた。
- ・伝承館の語り部にもご協力をいただき、絵本を出すこととしており、児童図書館等に広めてほしい。
- ・今年開催される東京オリンピックも意識し、伝承館から福島のことをいかに発信するか検討してほしい。

#### 【小沢座長】

- ・広く懇談会及びシンポジウム等を開いて様々な方と共有しながら、伝承館はだんだんと作り上げていくものだと改めて感じた。

#### 【伊澤委員】

- ・プロローグシアターで地震津波、原子力災害の悲惨さを理解してもらうのは非常に重要であり、時間も含め充実させる必要があるのではないか。
- ・1階フロアについて、季節ごとに、各市町村をテーマにした常設ではない展示を積極的に行う等、また来たいと思ってもらえる取組を検討いただきたい。

#### 【小沢座長】

- ・広域的な役割を持った福島県の伝承館であることについて、改めてご提案をもらった。

## ②展示の充実

#### 【青木委員】

- ・展示とは別途「原子力災害ライブラリー」を開設し、各自治体の動画や記録誌等を見ることができる形にすることも一案だと思った。
- ・原子力災害を全体的に見渡せるような拠点になる必要がある。一般研修におけるフィールドワークも、様々なコースを提案できるような拠点になるといい。

#### 【小沢座長】

- ・世代を超えて10代、20代の若い世代にどう伝えていくかが重要になる。

#### 【大場委員】

- ・文字が小さく理解しにくいし、具体的に想像できるものがなかった。他の人に伝えたり、また来たりする際、リアルに展示を捉えられたかがポイントになる。

#### 【小沢座長】

- ・写真も文字なしでは語れないものがあり、誰かの説明や関連するものとセットであることが重要。

【小野委員】

・今は時系列型だが、今後クラスター型への変更もいいのではないか。興味の範囲によってモデルコースの作成をするのも大切。要所にスマホを活用した音声ガイドができる仕掛けをつくるのはどうか。

【高荒委員】

・原子力災害の悲惨さを正確に伝えた上で、そこからの復興が大変だった、がんばっているというメリハリをきっちりつける必要がある。厳しさをしっかり伝えることが大事。

【伊澤委員】

・復興祈念公園等との関連をさせることが必要である。双葉郡や浜通りなど全体的にみるべきポイントがあり、様々な市町村の復興の姿を見ていただける。

【小沢座長】

・伝承館以外にも、様々な切り口から仕掛けることでイメージも違ってくる。

【前川委員】

・福島の特徴は複雑で割り切れない。ある人の正義がある人を傷つけることを想像できるか、当事者のことを想像して踏み込めるか、これがないから「何か違う」という感想をもたれる。

・質問。なぜ、常勤研究員採用されなかったのか。

【事務局】

・館長と上級研究員で審査したが、要件と被災地に関する研究等のマッチングができず、採用に至らなかった。今後それも踏まえながら体制づくりを検討していきたい。

【前川委員】

・研究者が議論をして専門的知見から説明できないとおかしい。研究者が複数いて学問的裏付けで答えることができるようになるといい。

【小沢座長】

・研究者が研究しながら、進めていることをアピールしていくが大事だと思う。

・一つひとつの展示内容については当事者意識や議論が起こるような展示を心掛け、いろいろな方々の意見・議論を踏まえて進めていきたい。

【青木委員】

・語り部育成には語り部同士の対話も必要になってくる。育成のための時間をしっかり作ってほしい。

【事務局】

・伝承館は世界に複合災害を伝える大切な資産。厳しい意見こそしっかり受け止めて検討していきたい。

○委員ご意見に対してのコメント。

・市町村の企画（大場委員・伊澤委員）…市町村にお声がけさせていただくので一緒に検討をお願いしたい。

・ライブラリー（青木委員）…知の拠点として考えている。来館者が立ち寄れるような場所にしていきたい。

・メッセージ…伝えているつもりでも相手に伝わらなければ意味がない。一つひとつ工夫・検討を重ねていきたい。

・新しい世代にどのように引き継ぐかが大切。伝承館をよりよい施設とするような意見がもらえるよう取り組んでいく。